

外遊びと相談型子育てのひろばの 連携親子サポート

独立行政法人福祉医療機構（WAM）が行う社会福祉振興助成事業（WAM助成）は、国庫補助金を財源とし、高齢者・障害者などが地域のつながりのなかで自立した生活を送れるよう、NPOやボランティア団体などが行う民間の創意工夫ある活動などに対し、助成を行っています。

今号では、WAM助成を活用した特定非営利活動法人あそびっこネットワークの取り組みを紹介します。

子どもが主体的に育つ 社会づくりを目指す

東京都練馬区にある特定非営利活動法人あそびっこネットワークは、プレーパークや子育てひろば等の居場所の運営や人材育成などを通じて、子どもたちが地域のなかで人や自然と関わりながら、主体的に育つことができる社会づくりに取り組んでいる。

同法人の活動は、平成15年に練馬区在住の小学生の保護者たちが、子どもたちの遊び環境の貧弱さと生きる力の乏しさを危惧し、地域の公園で「光が丘プレーパーク」（冒険遊び場）を開催したことに始まる。プレーパー

クは、地域の子どもが誰でも無料で参加できる遊び場で、専門職のプレーリーダーが子どもたちの主体性を発揮できる環境をつくり、自然や地域住民とふれあいながら、遊びを創り出すことのできる場となっている。

その後、活動を続けるなかで、プレーパークに来て遊び方がわからない多くの子どもたちと出会い、小学生の遊ぶ力は乳幼児期の育ちと親の意識の影響が大きいことに気づき、子育て支援に力を入れるようになった。

平成20年には、練馬区の補助事業「民設子育てのひろば」の運営を始め、平成23年にNPO法人格を取得している。現在は練馬区内で、全年齢対象のプレーパーク・出張プレーパーク（4カ所）、乳幼児親子対象の「民設子育てのひろば」（2カ所）、地域の公園等屋外会場にする「外遊び型子育てのひろば」（6カ所）、練馬の原風景屋敷森を活用した「自然×冒険×交流」がコンセプトの「練馬区立こども森」を運営している。

同法人が運営する居場所の特色について、理事長の中川奈緒美氏は次のように語る。「当法人が運営する外遊び型子育てのひろば『おひさまびよびよ』は、動きが活発にな

WAMから ひと言

発達が気になる子どもを対象とした「相談型子育てのひろば」の必要性と運営方法を確立させ、わずか1年で行政から部分的な補助が受けられるようになったことを高く評価します。

全国で開催されている子育てひろばのほとんどが室内で開催されており、集団が苦手な子どもはトラブルが多く、なじめないことから親も参加をためらいます。そうした親子のニーズに即した「相談型子育てのひろば」が成立するには法人独自で開催している「外遊び型子育てのひろば」が必要であることを示し、室内と屋外のひろばをセットにした本事業は、モデルとして全国へ広がるのが期待されます。

る1歳過ぎ頃からの「外遊びデビュー」のサポートを通して、子どもの「食う・寝る・遊ぶ」のリズムが整い発達が促されることと、親の子育てストレスを緩和することを目指しています。会場は屋外の公園なので、子どもたちは思いきり体を動かし、自然に触れ、豊かに遊びの幅を広げています。また、子どもに声をかけてくださるシニア世代の方もいらして、多様な世代との出会いが子育てのストレスを緩和することもあります。「おひさまびよびよ」には、室内には居づらい発達に課題のある子や子育てストレスを感じる保護者が多く集まる傾向がありますが、全国的な問題である発達支援の専門機関の飽和状態は練馬区にもあり、スタッフが対応に困る親子に必要な



公の支援が届きにくいことが課題でした。そこで、子育てひろばに専門家が常駐し、気軽に相談ができる『おひさま相談ひろば』を始めました。

モデル事業の採択を受け 課題を抱える親子をサポート

この気軽に専門家に相談ができる居場所の取り組みは、平成29年度のWAM助成で新たに開始したモデル事業の採択を受け、「子育て・発達・遊び支援ひろば事業」として実施された。

モデル事業は、WAM助成の優良事例の中から地域の実情や課題に対応した取り組みをモデルとして設定し、同様の活動を行う団体を募集することで全国に普及させることを目的としている。29年度は「居場所運営」を通じた子育て・子育て環境向上事業」をテーマに募集し、同法人を含む12件のモデル事業を採択した。



全年齢対象のプレーパークに参加する子どもたち。配置したプレーリーダーが子どもの自主性を発揮できる環境づくりを行っている



専門職が常駐する 「おひさま相談ひろば」を開設

新設した「おひさま相談ひろば」は、子どもの発達に不安を感じながらも、専門施設での個別相談に抵抗のある親、発達診断の順番待ちや経過観察中の親、子育てでストレスを抱える親などが気軽に相談できる子育てひろばとして「民設子育てのひろば」と学童保育の空き時間を活用し、拠点ごとに月2回開催した。支援体制は、子どもの発達に特化した発達臨床心理士が常駐し、必要に応じて理学療法士を配置した。

周知方法としては、既存の子育てひろば等の利用者に紹介するほか、案内チラシを練馬区内の保健相談所や子ども家

庭支援センターなどに配布し、41人の利用登録があった。

「おひさま相談ひろば」の大きな特色は、個別の面談とは異なり、子どもが遊んでいる傍らで、専門家に様子をみてもらいながら気軽に相談できる体制をつくっていることである。これにより親も相談しやすく、専門家にとっても日常に近い環境のなかで子どもたちの状況や親子の関わりを確認することができ、一人ひとりの子どもの個性や特性を親に伝えながら、コミュニケーションがスムーズになる関わり方などをアドバイスすることが

事業概要

平成 29 年度モデル事業

特定非営利活動法人あそびっこネットワーク
子育て・発達・遊び支援ひろば事業

助成額
569 万円

【事業概要】

地域の子育てひろば等で対応が難しい「発達が心配」、「子育てでストレスがある」という親子を対象に、気軽に専門家に相談ができる居場所をつくり、親子ともに居心地がよく、親が安心して悩みを相談できることを目指す事業



【実施内容】

- ◆「おひさま相談ひろば」の開催
子どもの発達に不安を感じながらも、専門施設での個別相談に抵抗のある親、発達診断の順番待ちや経過観察中の親、子育てでストレスを抱える親などが気軽に相談できる居場所を定期的に開催
- ◆スタッフ研修会
子どもの発達課題や親の子育てでストレスの対応などでは、専門的なスキルが必要なことから、子育て支援者を対象に専門性を高めることを目的にしたスタッフ研修会を実施



【成果】

- ◆「おひさま相談ひろば」は 36 回開催し、延べ参加者数は 296 人（保護者 151 人、子ども 145 人）にのぼった。臨床発達心理士が常駐し、子どもたちが遊んでいる様子を見てもらいながら、一人ひとりの子どもの個性や特性、関わり方などをアドバイスした
- ◆全 8 回開催したスタッフ研修会では、臨床発達心理士を講師に招き、事例検討を中心に子育て支援の基本的なスタンスや傾聴を通した親への対応などについて学び、スタッフのスキルアップにつなげた
- ◆利用した保護者を対象にしたアンケートの結果では、「相談できて気持ちが楽になった」、「子どもの発達や関わり方でわかったことがある」という回答が寄せられ、子どもの発達や個性についての理解や育児ストレスの軽減につながっていることがうかがえた

●助成事業後の波及効果

平成 30 年度から「おひさま相談ひろば」の活動は、練馬区の「民設子育てのひろば」の特定事業取組み加算分として継続的に運営することを実現
さらに、練馬区の子ども家庭支援センターでも、発達が気になる子どもを対象にした「のびのびひろば」が始まった



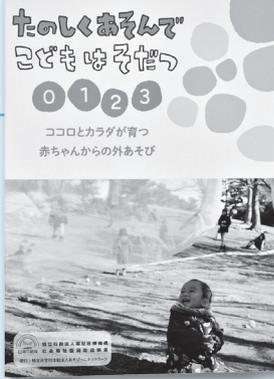
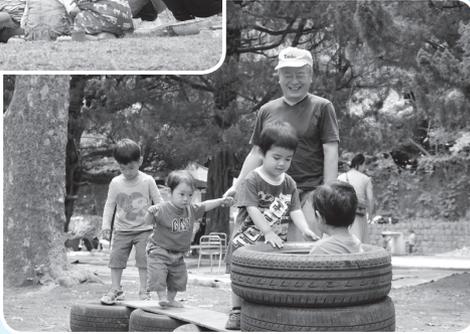
可能となっている。

子どもが遊ぶ様子を親と共有し 信頼関係を構築

「発達に課題を抱える親子は、子育てひろばなどで他の子どもとトラブルになり、うまく遊ぶことができない経験を多くしてきていますので、いきなり相談を受けるのではなく、まずは子どもが遊んでいる様子を親に見てもらうことで、信頼関係を構築することが大切です。そのため、『おひさま相談ひろば』では遊びの環境を充実させ、子どもたちの興味を引き出す道具を揃えています。子どもたちがいちばん興味をもって遊ぶのは、単なる布やひもだったりしますので、そのあたりはスタッフの力量が大きくなっています」。



乳幼児親子を対象にした外遊び型子育てのひろばの活動の様子



助成事業では、子どもの外遊びの重要性や活動内容をまとめた冊子『たのしくあそんでこどもはそだつ0123』を作成。保育所や子ども家庭支援センター等に配布し、大きな反響が寄せられた

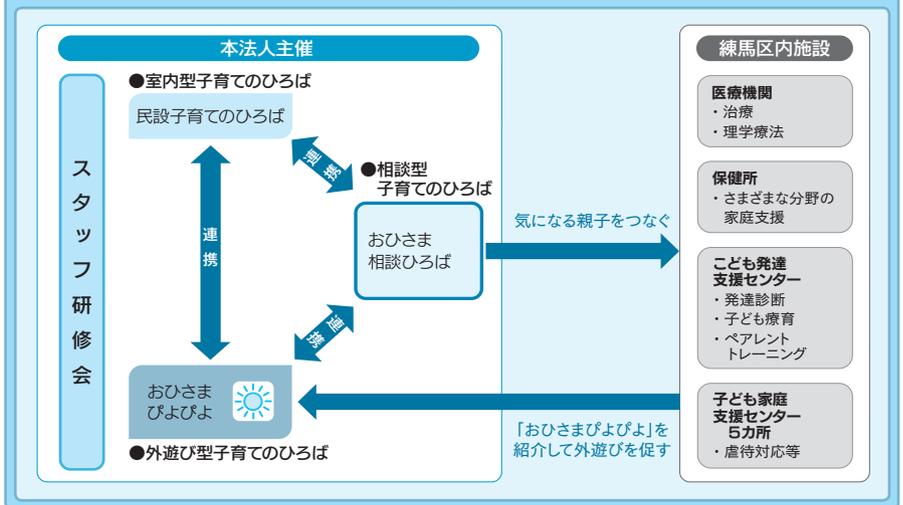
さらに、助成事業では既存の子育てひろば

スタッフの専門性を高める 研修会を開催

実際に参加する親子は、①子どもの発達に課題があるケース、②親に子育てストレスがあるものの、子ども自身の発達は問題がないケース、③親の育児力が拙くて子どもの発達に遅れが生じているケースの3つの属性があるという。育て方や関わり方を変えることにより改善する親子も多い、活動の様子や相談を通して、療育やより専門性の高いサポートが必要と判断した際には、適切なタイミングで発達支援センターなどの専門機関につながることを基本としている。

助成期間中（平成29年4月～30年3月）の「おひさま相談ひろば」の利用実績は、年間36回開催し、延べ参加者数は296人（保護者151人、子ども145人）にのぼった。このうち、実際に発達支援センターなどの専門機関につながるのは3割程度だという。

本法人主催の「相談型子育てのひろば」・「室内型子育てのひろば」・「外遊び型子育てのひろば」と練馬区内施設との連携



等で発達に課題のある子どもでも楽しく遊べる環境をつくるため、スタッフの専門性を高めることを目的とした研修会を実施した。

これまで同法人では、自身の子育てが一段落した地域在住の主婦層が、地域の子育ての支え手となる「地域循環型子育て支援」を実践してきた。このようなスタッフは当事者のニーズを把握し、楽しく居心地のよい環境づくりには長けている一方で、子どもの発達課題や親のストレスへの対応など専門性という視点でみると課題があり、ス



この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約によって保護されています。版權者（独立行政法人福祉医療機構）ならびに著作権者の許可を得ない複製（コピー）、再配布を、固くお断わりいたします。

助成事業の成果としては、「おひさま相談ひろば」を開設し、子どもの発達や育児で悩みを抱える親子の相談に対応するとともに、スタッフのスキルアップを図ることにより、支援の狭間にいる親子に対して継続的にサポートを行う体制を構築できたことがあげられる。

『おひさま相談ひろば』には、既存の子育てひろばのスタッフもいるため、『外遊び型子育てのひろば』への参加を呼びかけることができますし、スタッフ間で親子の状況を情報共有しているため、その子どもが利用した

「おひさま相談ひろば」と同様の活動が区全体に広がる

スタッフのスキルアップは必要不可欠となっているという。

全8回開催したスタッフ研修会では、CAREプログラムの実施と、臨床発達心理士を講師に招いた事例検討を行い、子育て支援の基本的なスタンスや傾聴を通じた親への対応方法などについて学んだ。

「子育ては一人ひとりの考え方が異なりますから、子育てひろばの支援は自分の価値観や経験などのモノサシでは相手を測れないことをしっかりと自覚しなければなりません。子育ての不安やストレスは、親自身がかかっているのかわからないときに生じますので、スタッフには客観性と共感性の両面をもちあわせながら、親の思いを聞き取っていくことと、子どもの発達にあり支援を行うことが求められると考えています」。

子育てひろばの連携が可能に

特定非営利活動法人
あそびっこネットワーク

理事長 中川 奈緒美氏



当法人では外遊び型子育てのひろばを運営し、外遊びの活動を大切にしてきました。外で遊ぶということは心と身体の発達において不可欠ですし、地域の人たちと出会い、多様な価値観に触れることは、子育てするうえで必要な環境だと思っています。

WAM助成のモデル事業で実施した「おひさま相談ひろば」では、子どもの発達や育児ストレスを抱える親子が気軽に専門家に相談できる支援を行うことができました。また、これまで外遊びへのハードルがあった室内の子育てひろば利用者が「おひさま相談ひろば」のサポートを受けて、外遊びを始めるケースも増えています。

立ち上げ期の助成が多いなか、既存事業の充実や取り組みの普及などをWAM助成で継続的に応援いただけたことが、事業のステップアップに役立ちました。

ときに遊びやすい環境をつくったり、他の子どもと関わられるようなサポートができるようになり、日常の子育ての支援がしやすくなったことがいちばん大きな成果だと実感しています。

また、「おひさま相談ひろば」を利用した保護者を対象にしたアンケートの結果では、「相談できて気持ちよくなった」、「子どもの発達や関わり方でわかったことがある」、「子どもが何を考えているのかわかったことがある」という回答が9割を超え、子どもの発達や個性についての理解が深まり、育児ストレスの軽減につながっていることがうかがえた。

助成事業で実施した「おひさま相談ひろば」の活動は、平成30年4月から練馬区の補助金事業「民設子育てのひろば」の特定事業取組み加算分として、現在も運営を継続している。

さらに、練馬区に5カ所ある子ども家庭支援センターでも、発達に不安のある親子を対象にしたひろば事業「のびのびひろば」の運営がスタートし、区内全体で支援が広がっているという。

発達が心配な子どもや子育てにストレスを抱える親など、支援の狭間にいる親子を継続的にサポートする同法人の取り組みが全国に広がることが期待される。

◆団体概要

〒179-0071 東京都練馬区旭町1-16-1
TEL/FAX: 03-3976-3113
URL: <https://asobikkonet.com/>
設立: 平成23年4月 (任意団体設立: 平成15年)
理事長: 中川 奈緒美



社会福祉振興助成事業に関するお問い合わせ

●NPO リソースセンター

NPO 支援課 (助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)
TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課 (助成事業の広報、事業評価等)
TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO等の民間福祉活動への
応援よろしく申し上げます!

寄付金のお願い

当機構では
寄付金を募集しています

お問合せ先: 03-3438-0211 (総務部総務課)

